

平成21年度能美市地域福祉活動計画  
第5回アクションプラン推進協議会及び評価委員会

日時：平成22年1月15日（金）午後5時00分～

場所：辰口健康福祉センター

出席者：高塚亮三（福祉施設等）、西川方敏（市ボランティア連絡協議会）、井上徹（市民生委員児童委員協議会）、澤田時弘（市町会長連合会）、宮田明（市自治公民館協議会）、喜多泉（子育てに関わる団体）、近藤沙夜里（一般公募）  
田中邦一（学識経験者）、荒井昌宏（学識経験者）

欠席者：南昭憲（市自治公民館協議会）

事務局：宮本会長、宮田事務局長、新川、海道、南野、谷

1. 開会の挨拶

<高塚会長>

新年が明け、みなさんも気持ちを新たにしているかと思う。今年度のAPについて進めてきたことを、年度末に向けてまとめていく時期になってきた。

私はもう一度、地域福祉推進の理念なり、指針を見返しながら、「今年度はこんな年だった」と思い返しているところである。本日も11月のAP推進協議会以後の各AP委員会で協議されたことを報告し合い、有意義な会議にしたいと思う。

<宮本社協会長>

AP推進協議会においては、精力的に会合をもってもらい、地域福祉の推進役として大変お世話になり、改めて厚くお礼を申し上げたい。また、今年度は新たな取り組みとして、ちいきふくしウィークを開催することになり、みなさんには一層のご協力をお願いしたい。

2. 各AP委員会からの報告・・・次の議題3の①に補足説明する

3. よろっさ やろっさ つなごっさウィークについて

①各AP委員会の企画（案）の確認・・・資料1事務局説明

私たちのボランティアセンターづくり委員会（資料1参照・下記補足説明）

西川：私のAP委員選出母体である能美市ボランティア連絡協議会の研修として、京都の市民活動総合センターを見学したことを委員会で報告し、それをふまえた上で、ちいきふくしウィークの企画について話し合った。

私たちの委員会は、2つのコマに関わっており、1つは福祉協力校の発表会、もう1つは、ボランティアセンターは実際にどんなことをやっていけばよいのかを話し合う機会として、京都のセンター長に講師をお願いすることにした。

私自身は、京都のセンターを見学して実感したことは、ボラセンをどんなふ

うに活用するかというよりも、自分たちがどんなまちづくりをしたいのか、そのためにはどんなことをしていかなければならないのか、戦略的な発想で運営されていた。単にボラセンの機能を羅列して運営するのではなく、その機能がどんな意味を持つのか、まちづくりにその機能がどうして必要なのか、自分たちが発想し運営していくことを講師に伝えてもらいたいと思っている。

#### **ネットワークづくり委員会**（資料1参照・下記補足説明）

井上：私たちの委員会のウィーク企画は、参加者それぞれの立場から、日頃の活動の思いを出してもらうための導入の部分を、最初は、町会長や民生委員、ボランティアによるパネルディスカッションを考えていた。でもパネラーによって話す時間が長短となったり、時間内に話がまとまらないこともあるので、ある程度テーマをしぼってシナリオをつくり、寸劇仕立てでそれぞれの立場の声を想定して参加者に投げ掛けることになった。具体的な内容はまだ決まっていない。

#### **支えあいのしくみづくり委員会**（資料1参照・下記補足説明）

喜多：私たちの委員会の企画は、ミッフィー倶楽部の方に絵本コーナーをつくってもらい、絵本を選びながら大人も子どもも楽しめるような温かいコーナーにしたいと思っている。絵本コーナーから少し離れたスペースに、飲物と手づくりのお菓子を置くような形で、そこでくつろぎながら、普段の心の中に溜まっていることを話し合い、子どものことを考える機会にしたい。未来の能美市の子どもたちがどんなふうになって欲しいのか、今の子どもたちがどんな大人になって行って欲しいのか、こんなことを考えながら、「今、大人が何をできるのか」まで持っていけたらよいが、あまりきちっとした筋書きを立てず、普段の思いをそこで語り合いながら、知らない人とまたつながっていく、そういう場になればと思う。講師が特にいないので、スタッフが様子を見ながら、間に入って進行する。あとは、子育てを応援するというテーマの寸劇を午前、午後と1回ずつ上演する。またウィークの企画のほかに、ファミリー・サポート・センターの来年度のことを少し話し合った。全国的にファミサポと名前のつくものは、子どもを育てることに対するファミリーサポートというところが多いので、能美市もそれに準じて、子どもを対象にしている。ファミサポとして、来年度は、障害を持っている子どもも対象にしたサポートを少し意識して、学習もしていきたいと話し合った。委員会としては、支援の対象を、行く行くは、お年寄りであったり、障害者も含めた支えあいを考えている。

#### **人づくり委員会**（資料1参照・下記補足説明）

高塚：私たちの委員会の企画は、内容をどうするか、やはりもう1度、理念なり、指針なりを見直して、福祉の意識をどう定着させていくかという観点からいろいろと話し合った。まなびフェスタは、これまで「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けたい」というテーマで、少なくとも2回はやってきた。大体、市民に伝えることは、毎年、そんなに違いはないが、これを本当に実行に移すにはどうしたらよいかを今、考えており、ただ単に多くの方に参加してもらうことだけでなく、参加者が地域に戻って、どうするのかという福祉の視点を持って活動できるようにしたい。

高塚：以上4つのAP委員会から報告してもらった。何か、質問・意見等はあるか。

田中：話は反れるかもしれないが、先般、市の議会を傍聴して、ある議員が辰口地区で高齢化率が50%以上のいわゆる限界集落がぼちぼち出てきていると発言していたのを聞いて、大変な状況に進んできていると思った。福祉分野の役割が重要になってきており、人づくり委員会と連携している認知症を理解するための講座の開催や地域福祉委員会の設置とその活動を推進していくことの大切さを実感した。

高塚：今、言われた中で、認知症講座については、ただ開催回数を増やしていくことだけでなく、単に受講者が「いい話やった」で終わらず、福祉の意識を少しでも持ってもらい、自分たちの地域生活に何かしら実践できるような内容にしていきたいと思う。

事務局：ウィークの企画で人づくり委員会に関わるまなびフェスタの分科会について（宮本）て、もちつきや豚汁はどういうタイミングで出されるのか。

高塚：最初に出す。その後もちつきという行事を高齢者や障害者も含めて一緒に楽しむための工夫、配慮などいろいろな思いや感じたことを話し合うという流れ。もちつきも話し合いも同じ会場内で行う。

## ②最終日の企画（案）の確認・・・資料2事務局説明

高塚：最終日の企画（案）について、質問・意見等はあるか。

井上：昨年の地域福祉フォーラムは、町会をはじめ各種団体などに動員をかけ、大きなホールで開催した。この機会は、ウィークのまとめでもあるが、今年度は少し飲食をとりながら、あまり気の張らない反省会を兼ねた自由談義にしたいというイメージなので、特に動員はかけないということか。

事務局：案内通知はするが、動員を掛けるということはない予定である。イメージ

的には、各AP委員会が担当したコマの報告や反省会であり、AP委員と評価委員会の正副委員長、社協理事、社協運営検討委員、事務局で40～50名程の参加を想定し、そこに、もしかしてウィークの中でもう少し話したかった、もう少し話を聞いてみたいと思う一般市民が参加するかもしれないという案である。

このコマだけ参加してもわかりづらく、ウィークの中のどれかに参加した方が参加するコマなのかなと思う。また、今年度のAP推進協議会の中で、各AP委員会の中だけで話し合いを進めていくのではなく、お互いの意見交換など横のつながりも意識したいという意見もあり、良い機会にもなるかと思う。

宮田：そういう機会と捉えるなら、このコマは、周知案内から外した方が、内容や規模について、シンプルな考え方ができるのではないか。

事務局：それでは、AP委員をはじめ関係者の報告・反省会という位置づけにするか、一般市民も自由参加できるという位置づけにするか、協議していただきたい。

喜多：この企画（案）だと夜間で飲食もあるということだが、飲食しながらでは、ここに出されている内容を充実させるのは難しいと思う。私は、あまり構えない反省会だと思っていて、この内容であれば飲食を入れなくて、きちんとした方が良いと思う。

井上：私もそう思う。これだけの内容を入れるのであれば、先にこの内容をする時間をつくって、そのあとに飲食を入れた反省・慰労会として、別々にした方が良いと思う。

田中：時間帯は、午後3時か4時頃から開催し、そのあと6時頃から飲食を入れた時間をつくり、会費制にして参加する形にしたらどうか。

事務局：企画（案）の内容については、報告や発表と書いているが、あまり形式張らず和やかなイメージで、ウィークの感想を話し合うような思いである。

高塚：この機会に、ウィークについての声をまとめられたものは、AP推進協議会や評価委員会に挙げる資料にして、各AP委員会からの報告や感想などをファシリテーターにポイントを押さえてもらうという流れで1時間程度にして、そのあと反省・慰労会としたらどうか。

事務局：その提案にすると、時間帯はいかがか。

喜多：女性が参加しやすいことを考えて、午後4時から6時にして、飲食が入るの

でそのあと続けたい方、帰りたい方など、自由にしたらどうか。

事務局：その時間帯で異議がないようなので、時間帯は4時からの開催にする。参加対象については、ウィーク最後のまとめのコマということで、一般市民に呼び掛けることにするか、飲食の準備等で予約の必要性もある兼ね合いで、A P関係者のみとするか。

西川：やはり、このコマだけに参加するというのは難しいので、チラシなどの周知は市民自由参加とは記載せず、自由談義とだけ記載すれば良いと思う。

事務局：飲食もとれるようにするので、参加料は、事務局で調整したいと思う。

### ③予算（案）の確認・・・資料3 事務局説明

### ④その他・・・資料4 事務局説明

- ・ 「能美市地域福祉活動計画の推進」ということを念頭にした4 AP 委員会全てに共通した資料などの必要性について

高塚：21年度に各A P委員会が協議してきたまとめのようなものか。

事務局：あまり難しいものは思っていない。

喜多：掲示するのではなく、配布するものなのか。

事務局：それも含めて、ここで協議していただきたい。

西川：残り部数があれば、全戸配付用の地域福祉活動計画保存版で良いのではないか。

事務局：あまり残っていないこともあるがデータがあるので、もう少し抜粋したもので良いか。

喜多：私たちA P委員は継続して話し合ってきたから、福祉の思いも膨らんでくるし意識も揚がってきたけど、ちいきふくしウィークという企画にしたのは、一般市民の方がふらっと参加して、何かを感じて帰るということを狙ったからで、一辺に多くのことを伝えようとしても難しい。あまり文字が書かれていない絵や写真中心の掲示物なら、関心のある方は見ると思う。そしてもっと知りたいと思えば、聞いてきたり、自分でいろいろ調べるのではないか。

高塚：地域福祉活動計画の体系図と少し内容をまとめた資料を会場に置いて、自由に持って行ってもらうかたちではどうか。

事務局：それでは保存版を加工した資料を会場に設置し、自由に手にとってもらい持ち帰れるようにする。

- ・チラシやポスター作成及び参加者募集と申込締切について  
チラシ(案)：協議内容をふまえ事務局が修正 「分科会」をプログラムとする。  
ポスター：チラシをポスターサイズに拡大し市内施設等に掲示  
参加申込締切：2月20日頃
- ・各 AP 委員会ごとに企画したプログラムの振り返りを「かわら版」的な形で、発行する。
- ・宣伝グッズ（カンバッジ・のぼり旗）などの作成について  
のみんちゃんカンバッジ：作成せず  
のぼり旗：作成する

#### 4. 今後の予定

- \* 私たちのボランティアセンターづくり委員会  
・・・1月20日（水）午後7時～ 寺井地区公民館
- \* 地域福祉ネットワークづくり委員会  
・・・2月4日（木）午後7時30分～ ふれあいプラザ
- \* 地域福祉支えあいのしくみづくり委員会  
・・・1月22日（金）午後1時30分～ 辰口健康福祉センター
- \* 地域福祉人づくり委員会  
・・・2月9日（火）午前10時 寺井地区公民館

#### 5. その他

次回 AP 推進協議会の開催

日時：平成22年2月9日（火）午後5時30分～

場所：辰口健康福祉センター

評価委員会の開催

日時：平成22年3月17日（水）午後7時30分～

場所：辰口健康福祉センター

#### 6. 閉会の挨拶

<西川副会長>

昨年度の地域福祉フォーラムは、各 AP 委員会の1年のまとめや思いを市民に一方的に伝えた観があった。今年度は、分科会形式で市民を交えた意見交換を重視した形で開催することになったので、有意義な1週間になるよう、みんなで協力して準備していけたらと思う。

AP：アクションプランの略